

雇用確保に向けた取り組み

市やハローワーク高梁などが行っている取り組みを紹介します。

市内企業見学バスツアー

高校生を対象とした企業見学のバスツアーを平成30年3月23日に初めて開催し、製造業の2社を訪問しました。社内見学や若手社員と懇談を行い、それぞれの企業について理解を深めました。

今年度も高校生・中学生を対象としたバスツアーを計画しており、新たに市内の病院や福祉施設などを見学するコースを検討しています。



高校生が若手社員に質問

産業事情説明会

地元の企業を知ってもらい、地元での就職の促進を図ることを目的に、高校の進路指導担当教諭や卒業予定の就職希望者に対し、ハローワーク高梁・新見管内地域の産業事情の説明会を毎年開催しています。今年7月26日に行い、22事業所と高校生108人が参加しました。

高梁・吉備中央町 地域就職フェア

新規学校卒業予定者と一般求職者向けの就職フェアを、11月5日に開催しました。高梁市と吉備中央町の11事業所による面接会には、求職者23人が参加しました。会場には「介護職相談コーナー」も設け、介護職種を希望する求職者の相談などを受け付けました。



イーグル工業(株) 業務課長
しみず だいすけ
清水 大輔 さん

地元企業としての思い①

大学卒・中途採用などにも必要

当社では、毎年高校生を6人程度採用していましたが、生産が増え製造現場が人手不足の状況であることから、平成30年度は10人程度採用しました。

また、製造現場の自動化が進むとともに設備のメンテナンスなどに従来以上の知識・技能が求められ、データ分析などの専門的な業務が増えていることから、大学や専門学校で専門的な知識・技能を身に付けた人や、資格を有する人の中途採用にも力を入れ始めています。

しかし、製造現場は「作業者」というイメージがあるのか、応募者が非常に



女性社員も活躍中!

併せて、毎年開催している夏祭りやインターンシップ、中学生の職場体験学習を通して、会社の雰囲気などについて知っていただくことも重要であると考えています。

少ない状況です。

今後は大学生を対象とした企業説明会にも積極的に参加するなど、製造業とはどのような仕事なのか、どのような会社であるかを知っていただくことが必要だと考えています。

企業見学バスツアーなどを通して

今年3月に開催された企業見学バスツアーの受け入れを行いました。私たちの仕事に興味を持っていただくことができ、高校生が若手社員と話すことで「働く」ということを考える一つのきっかけを与えることができた良い機会となりました。実際にバスツアーに参加した人の中で当社を希望し、採用につながった実績もあります。今後このような機会を積極的に活用していきたいと思えます。



生涯現役セミナーの様子

アクティブシニア就職フェア・生涯現役セミナー

高齢者がこれまでの経験を生きかし、生涯現役で活躍していただくために就労意欲を喚起するセミナーと併せて高齢者の雇用を検討する事業所と就労を希望する高齢者を対象とした就職説明会を昨年開催しています。

10月2日の開催時には7事業所と求職者33人が参加し、セミナーでは社会保険労務士を講師に招き、年金制度や税金のあらまし、定年後の生活設計、ワークライフバランス、再就職に関する講演を行いました。

地元企業としての思い②



高梁中央病院 事務長
あかき じゅんいち
赤木 純一 さん

看護師・若者の雇用確保が課題

当院では新規学卒者の就職が少なく、看護師の平均年齢も48歳と一般企業に比べ高い状況が続いており、他の市内医療機関も同じような課題を抱えているそうです。

そのような状況の中で、私たちは医療・介護の現場や業務内容を知っていただくことが大切だと考えており、各地で開催されている就職フェアへ積極的に参加している

高梁市・総社市 合同就職フェア

総社市やハローワークなどと合同で、パートおよびアルバイトを希望する求職者を対象とした面接会を開催しました。

10月17日に総社市で、10月22日に高梁市で開催した就職フェアは今回が初めての試みで、両市から合わせて30事業所が参加し、企業の事業説明や求人情報を提供しました。

参加した人の中には、説明を受けた企業へ実際に就職した人もいます。今後もこのような他市町村と連携した取り組みを続けていくこととしています。



企業説明の様子(総社会場)

ます。実際に就職フェアの参加者から看護師を採用することができましたが、まだまだ求人数に対しての参加者が少なく、私たちが求める雇用の確保にまでつながっていないのが現状で、今後の課題ではないかと考えています。

実際に体験してみることが大事

当院は中学生の職場体験学習を受け入れていますが、実際に職場体験に来てくれた中学生が社会人として高梁中央病院に就職してくれたケースもありました。このことから、業務内容を知ってもらうだけでなく実際に体験してもらうことも大事だと考えています。毎年5月に「看護ふれあい祭り」を開催していますが、そこで子どもたちが医師や看護師の制服を着たり、薬剤師の業務を体験できたりするようにしています。

幼少期の早い段階から、医療・介護の現場に少しでも触れてもらうことが、高梁地域での医療・介護の体制の強化、将来のための雇用確保に向けて必要になってくると考えています。